

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23223002	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	現代日本における階層意識と格差の連関変動過程の実証的解明	研究代表者 (所属・職) <small>(平成28年3月現在)</small>	吉川 徹 (大阪大学・大学院人間科学研究科・教授)

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、時点間比較計量分析と数理実験シミュレーションという2つのアプローチから階層構造と階層意識の連関変動メカニズムを解明することを目的とするものであるが、これまでのところ計画通り順調に研究が進展しており、成果発表も積極的に行われている。2015年に実施が予定されているSSP調査では、当初の計画にはなかった日本初のタブレットPCを用いた個別訪問面接調査が予定されているなど、社会調査法の革新に積極的に取り組んでいることも評価できる。同じ2015年に予定されているSSM調査との連携に努めることが望まれる。</p>		

【平成28年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	<p>本研究は、これまで日本社会で蓄積されてきた社会階層と社会意識をめぐる調査データを詳細に分析するとともに、現在の状況を計量的実態調査により把握し、混迷を深めつつある日本の格差と流動化状況をめぐって、実証的エビデンスに基づく仮説理論構築を追求するものである。</p> <p>その成果は、国際的な発信も含めて期待どおり十分に達成している。また、CAPI（電子機材式訪問面接調査）法をはじめ、調査方法に独自の手法の開発を生み出したことも評価できる。</p> <p>現在、この調査結果を基に新たな分析が進行中であり、今後予定されている研究成果の社会への周知についても大いに期待したい。</p>